



## 平成16年3月期 第3四半期業績発表

# 会社説明会

平成16年1月21日 東証アローズ

この資料に掲載されている事項のうち、過去の実績・事実でないものは、将来の業績に関する見通しが含まれています。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。口頭もしくは書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願いします。また、あらたな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1) 当社の顧客獲得や顧客基盤を継続的に維持する能力(2) 当社が事業において収益を計上する能力(3) 日本国内における株式委託業務に対する需要の変化(4) 当社が事業継続するために必要なシステムを維持または拡充する能力(5) 当社が主要株主とよい関係を維持できる能力 などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。また、掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等に関し、当社は一切責任を負うものではありませんのでご了承ください。また、この資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。



# I .財務情報および事業の概要

## II .経営モデルと今後の展開

# 業績概要 2003年3月期 第3四半期 vs. 2004年3月期 第3四半期

マネックス証券株式会社

(単位:百万円、%)

	2003年3月期 第3四半期	2004年3月期 第3四半期	対前年同期比 増減
営業収益	2,061	5,247	154.6%
純営業収益	2,053	5,029	144.9%
販売費及び一般管理費	3,384	3,545	4.7%
営業利益	△ 1,330	1,484	-
経常利益	△ 1,325	1,492	-
四半期純利益	△ 1,369	1,385	-

(02年4月～12月) (03年4月～12月)

(単位:百万円、%)

	2003年3月期 第3四半期末	2004年3月期 第3四半期末	対前年同期末比 増減
総資産	16,773	43,261	157.9%
純資産	9,040	9,870	9.2%
自己資本規制比率	641.5%	536.1%	-
現預金及びCP	6,367	5,159	△19.0%
リース残高	2,591	2,095	△19.1%

# 業績概要 2004年3月期 第2四半期 vs. 2004年3月期 第3四半期

マネックス証券株式会社

(単位:百万円、%)

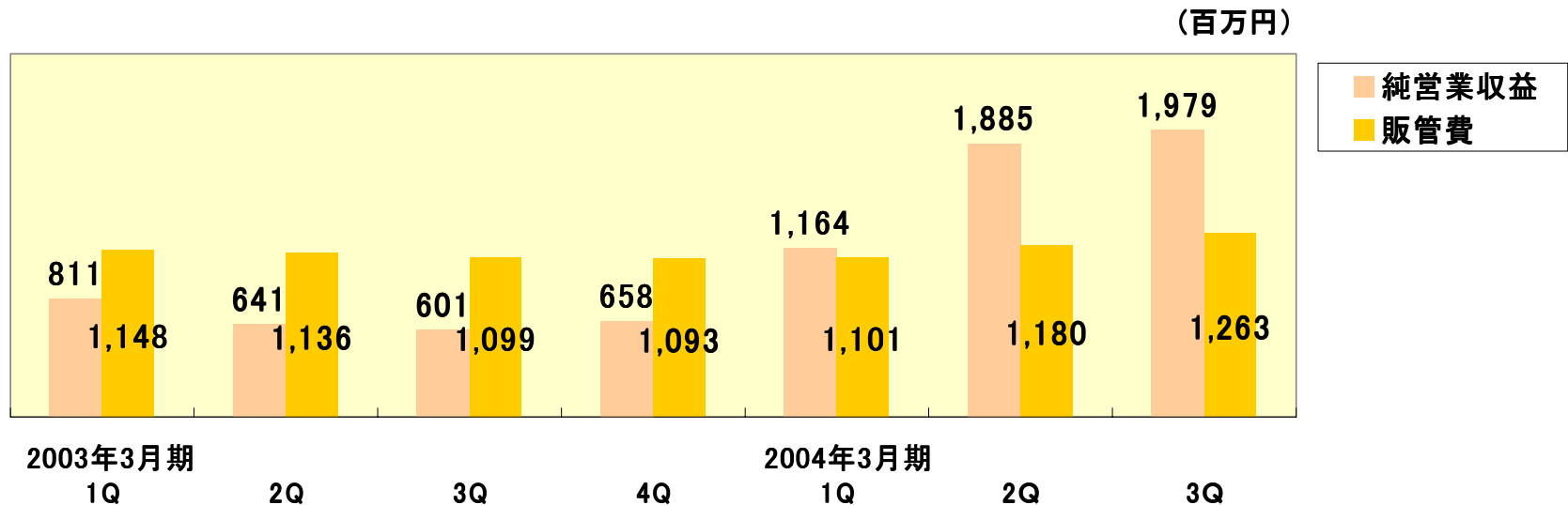
	2004年3月期 第2四半期	2004年3月期 第3四半期	対前四半期比 増減
営業収益	1,929	2,065	7.1%
純営業収益	1,885	1,979	4.9%
販売費及び一般管理費	1,180	1,263	7.1%
営業利益	705	715	1.4%
経常利益	706	718	1.7%
四半期純利益	668	679	1.6%

(03年7月～9月) (03年10月～12月)

(単位:百万円、%)

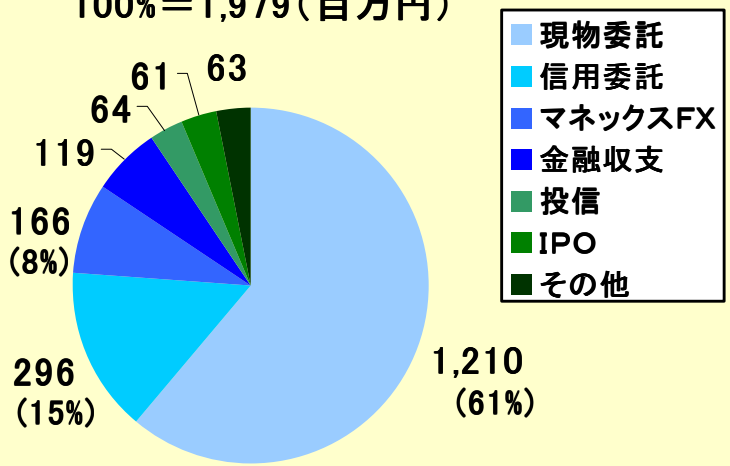
	2004年3月期 第2四半期末	2004年3月期 第3四半期末	対前四半期末比 増減
総資産	45,180	43,261	△ 4.2%
純資産	9,090	9,870	8.6%
自己資本規制比率	501.3%	536.1%	-
現預金及びCP	5,894	5,159	△12.5%
リース残高	2,139	2,095	△ 2.0%

# 純営業収益 vs. 販売費及び一般管理費



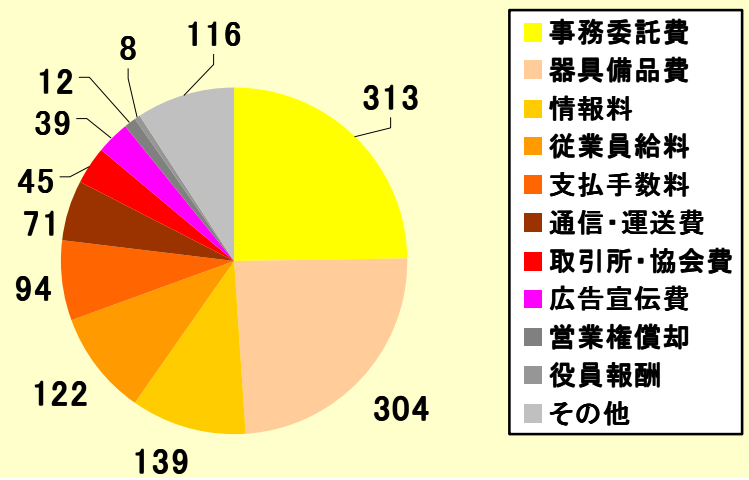
## 純営業収益内訳

100%=1,979(百万円)



## 販売費及び一般管理費内訳

100%=1,263(百万円)

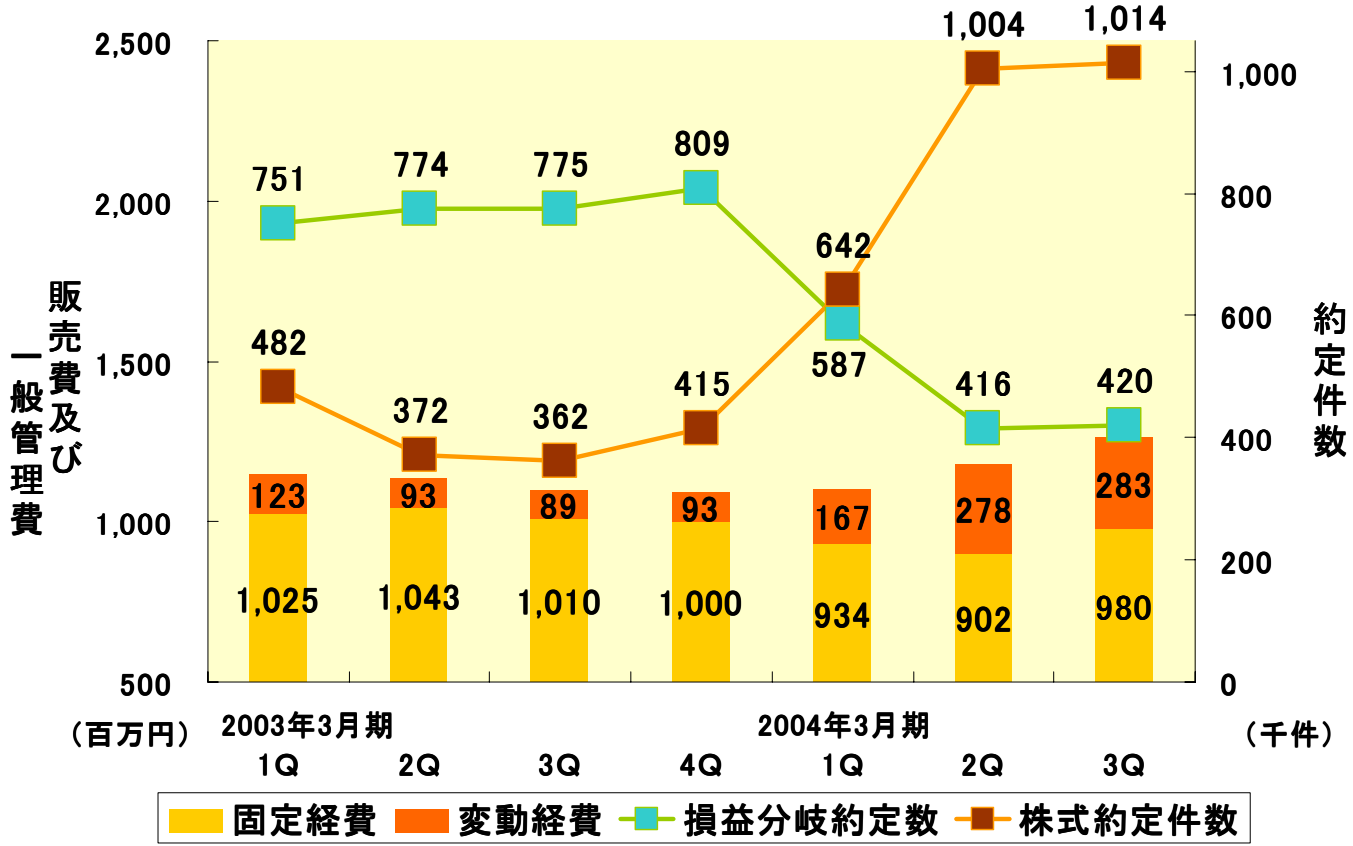


# 損益分岐点分析スプレッドシート

マネックス証券株式会社

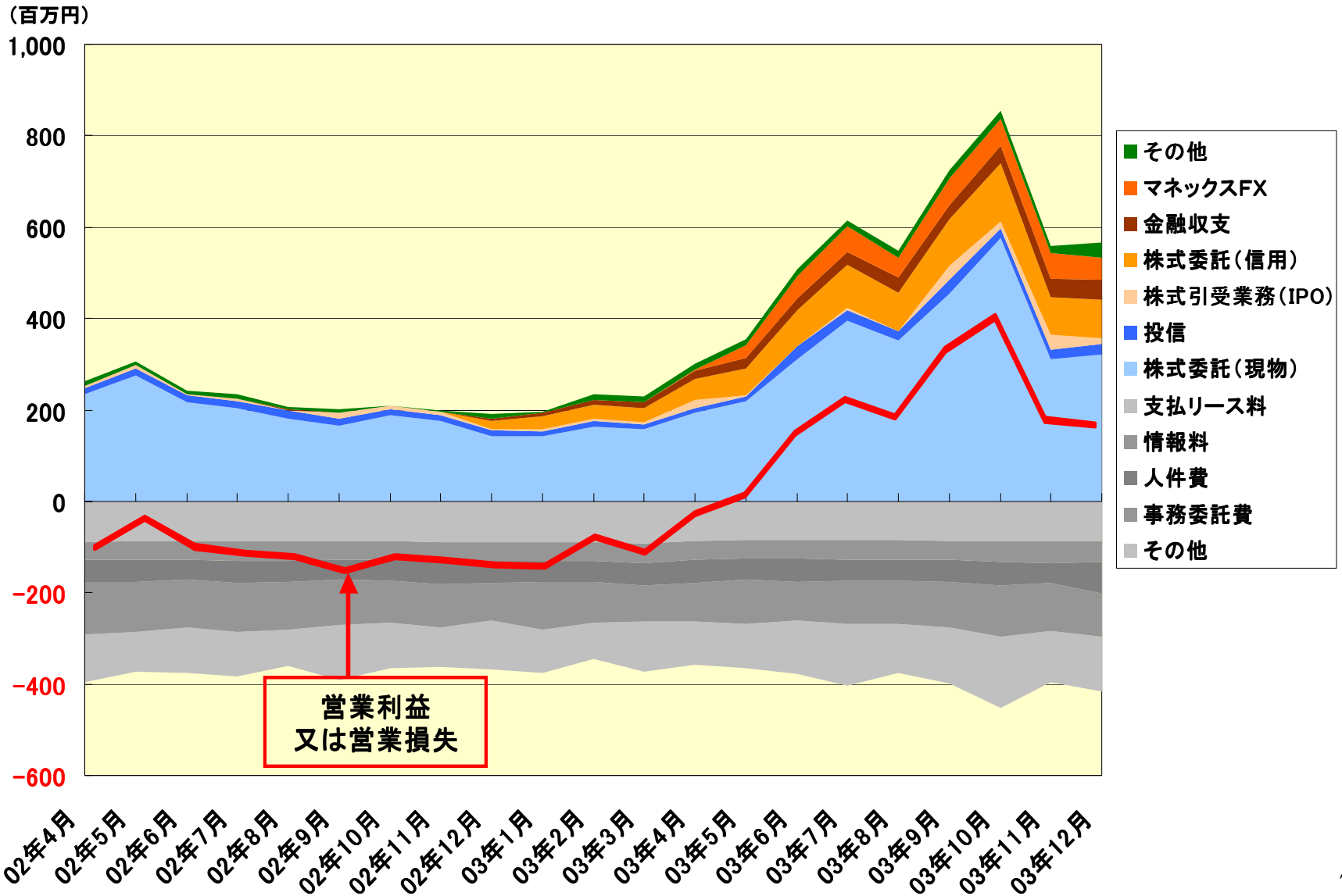
	2003/3期				2004/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
<b>1.純営業収益の内訳(百万円)</b>							
委託手数料	726	551	525	551	908	1,481	1,505
FX手数料	0	0	0	0	80	158	165
引受手数料	14	19	16	11	19	36	61
金融収支(※)+トレーディング損益+その他の役務収益	17	10	11	41	84	97	144
その他の収支(投資信託の販売手数料、代行手数料を含む)	54	61	49	55	73	113	104
純営業収益	811	641	601	658	1,164	1,885	1,979
<b>2.販売費及び一般管理費の内訳(百万円)</b>							
変動経費(委託手数料+FX手数料)×17%(概算)	123	93	89	93	167	278	283
固定経費	1,025	1,043	1,010	1,000	934	902	980
販売費及び一般管理費	1,148	1,136	1,099	1,093	1,101	1,180	1,263
<b>3.経常損益(実績)</b>							
経常損益(百万円)	-334	-493	-497	-432	66	706	718
<b>4.マネックスFX手数料率</b>							
FX取引金額(億円)	0	0	0	0	1,210	2,202	2,276
FX手数料/取引金額 10000分の					6.61	7.17	7.25
<b>5.一約定あたりの委託手数料</b>							
四半期株式約定数(1日あたりの約定数×営業日)(千件)	482	372	362	415	642	1,004	1,014
一約定あたりの委託手数料(円)	1,506	1,481	1,450	1,328	1,414	1,475	1,484
一約定あたりの変動経費(円)	255	250	246	224	260	277	279
株式約定数で算定する限界損益(円)	1,251	1,231	1,204	1,104	1,154	1,198	1,205
<b>6.損益分岐点分析</b>							
固定経費(百万円)	1,025	1,043	1,010	1,000	934	902	980
委託手数料以外の純営業収益(百万円)	85	90	76	107	256	404	474
委託手数料以外でカバー出来ない経費部分(百万円)	940	953	934	893	678	498	506
四半期損益分岐点概算(千件)	751	774	775	809	587	416	420
一月あたり損益分岐点概算(千件)	250	258	258	270	196	139	140
1か月=21営業日だと想定した1日当り株式約定数(件)	11,927	12,287	12,309	12,844	9,324	6,597	6,667
<b>(※)金融収支に関連する参考数値</b>							
信用取引残高[売建+買建]月末平均(億円)	0	0	0	87	127	188	257

# 損益分岐点分析—約定件数



- 2004年3月期 第3四半期**
- 個人投資家の売買が引き続き好調で約定件数は前四半期を上回る。
  - コスト削減努力により固定性費用を抑制し、約定件数に比例しないコストを実現する。
  - 純営業収益に占める、株式委託手数料の割合は76%まで低下。今後もさらに株式市況の影響を受けにくい安定収益の確保に努める。

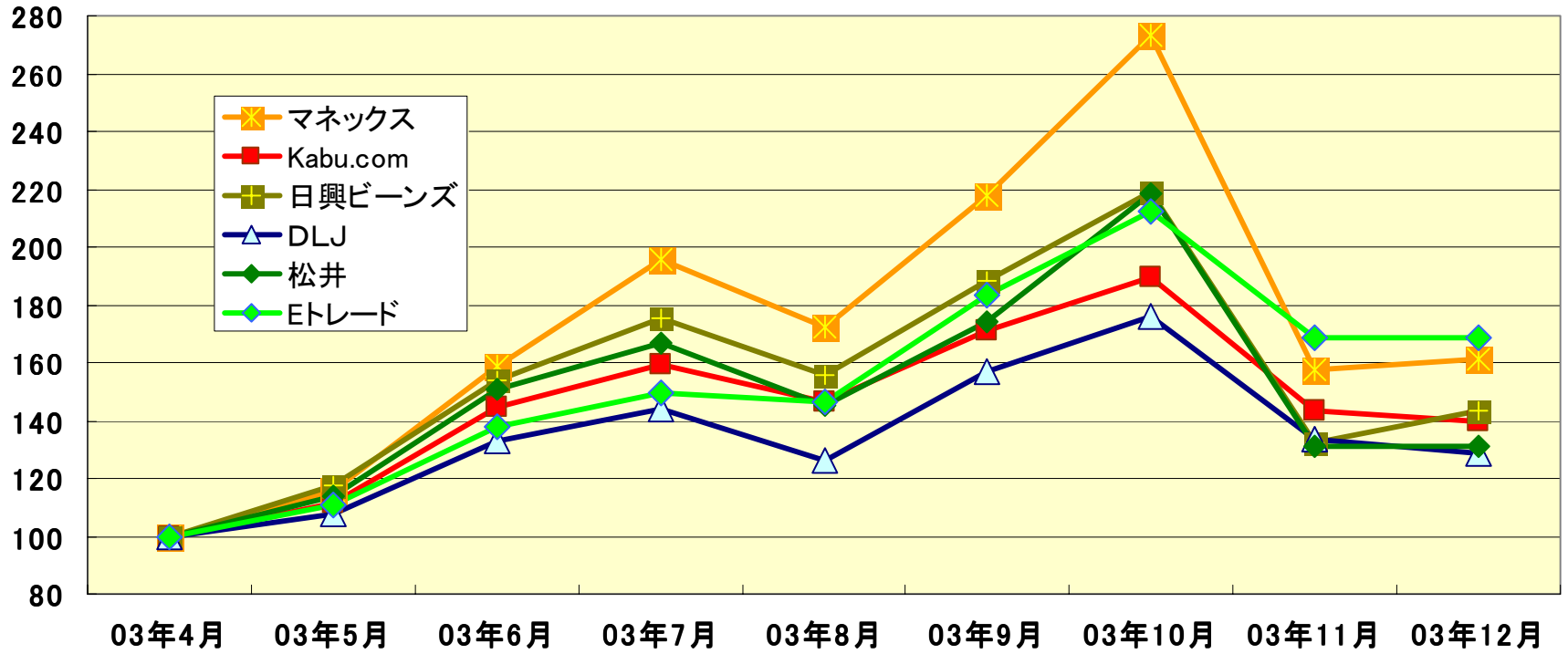
# 純営業収益の多層化





# 他社比較： 約定件数の推移

約定件数推移 (指数 2003年4月 = 100)

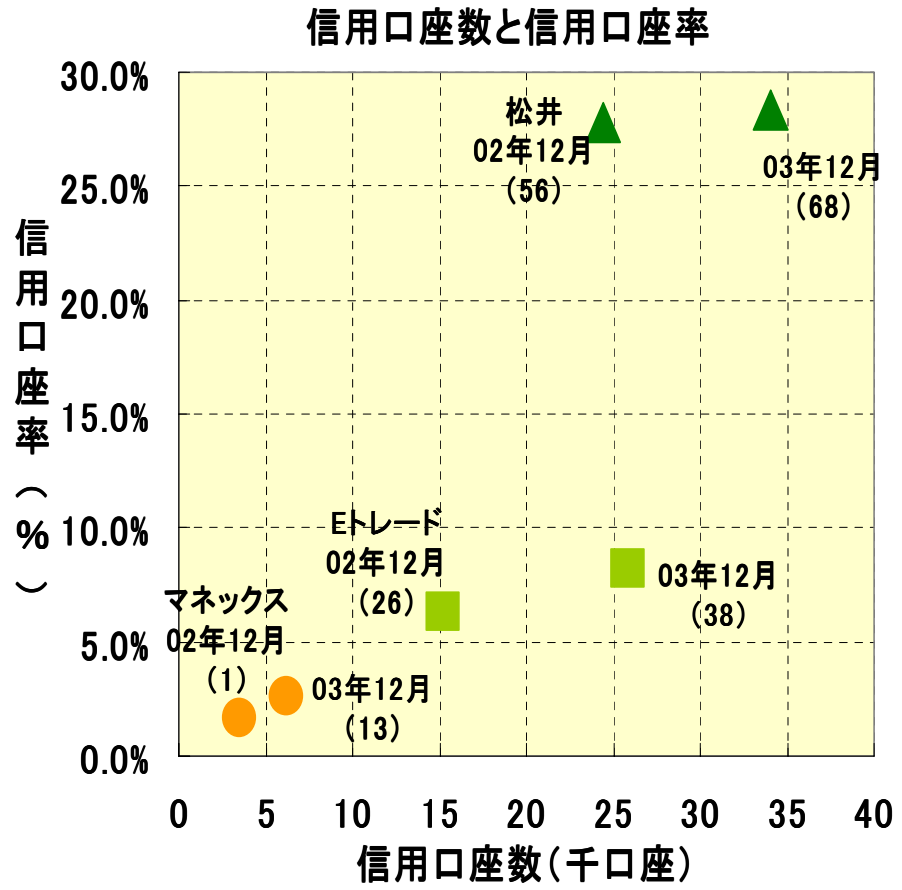
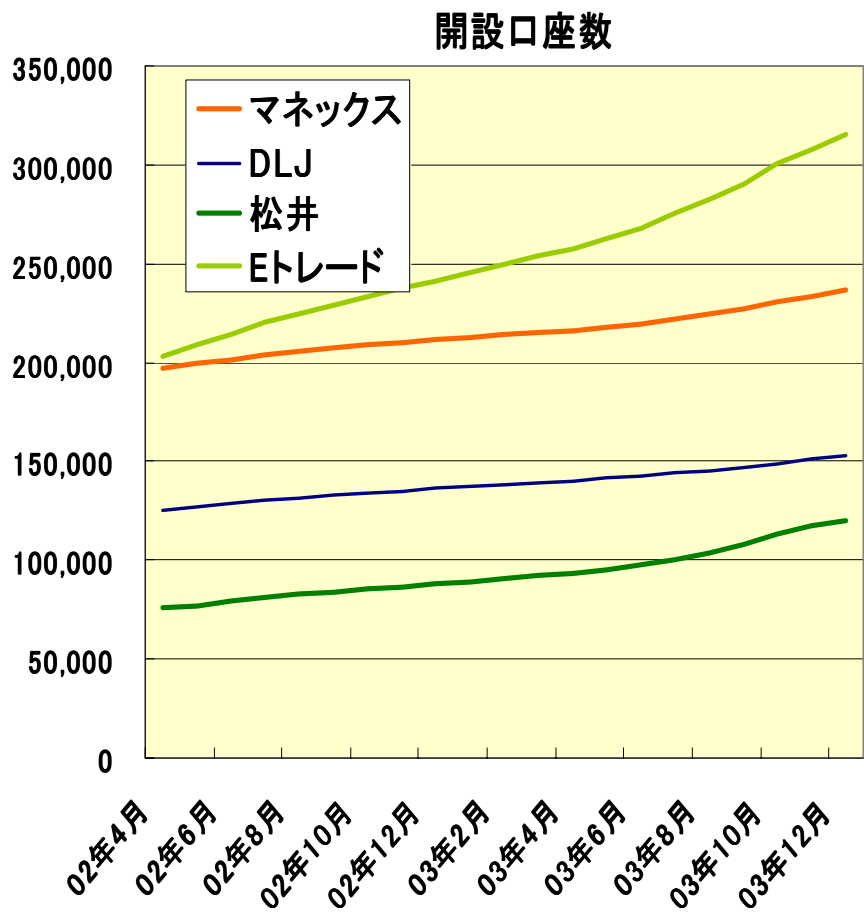


出所: 各社IR資料

- 株式市況が活況になると顧客の投資意欲が高まる
- 安定したシステムの提供により顧客満足度が高い
- 幅広いサービスの提供で顧客の利用範囲を広げる

市況回復時に高まる個人投資家の投資意欲の一番の受け皿となる

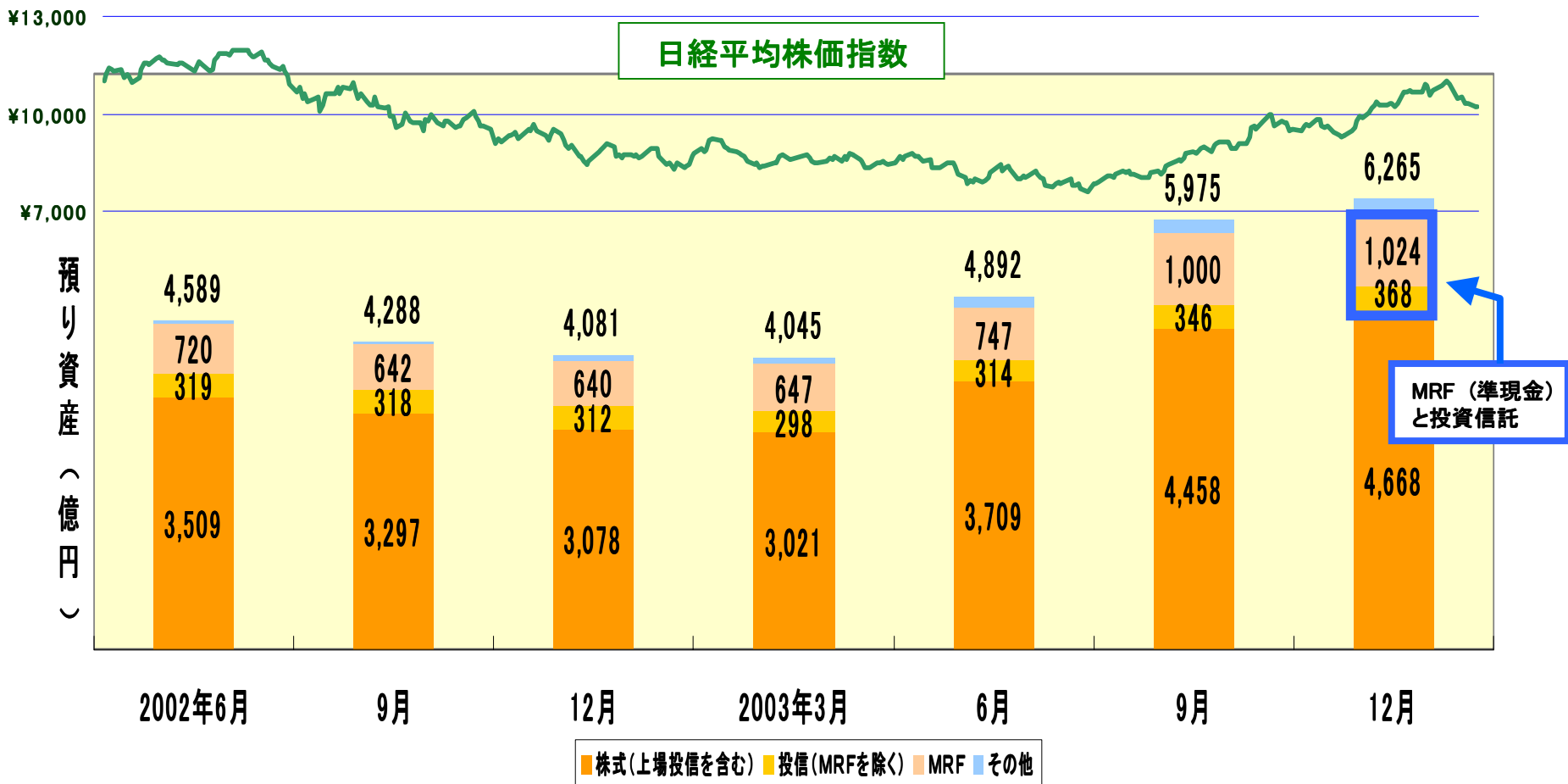
# 顧客開設口座数



・図中の( )は各社の信用取引開始からの月数を表す  
 ・松井証券はオンライン専業となつてからの月数で表示

出所: 各社IR資料

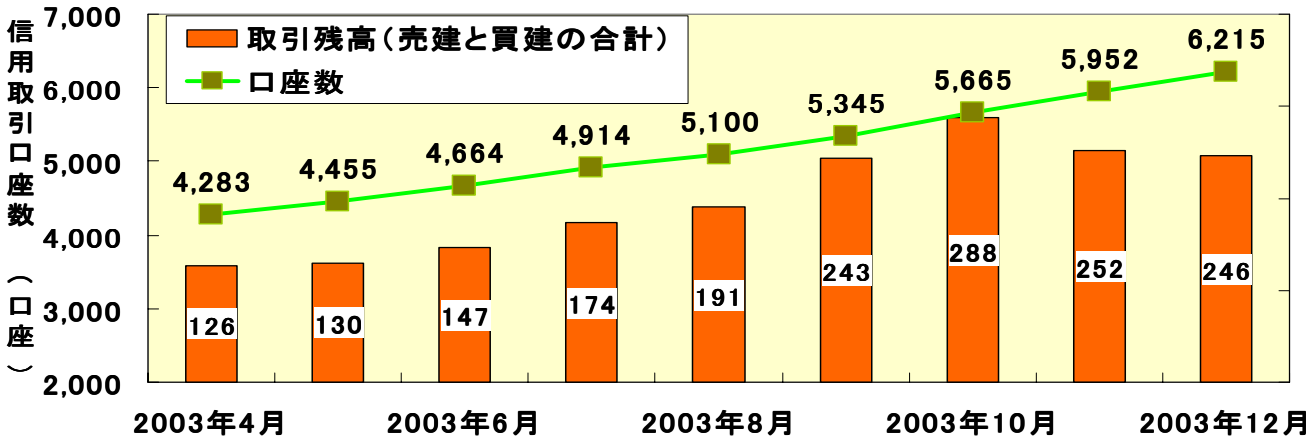
# 顧客預かり資産の推移



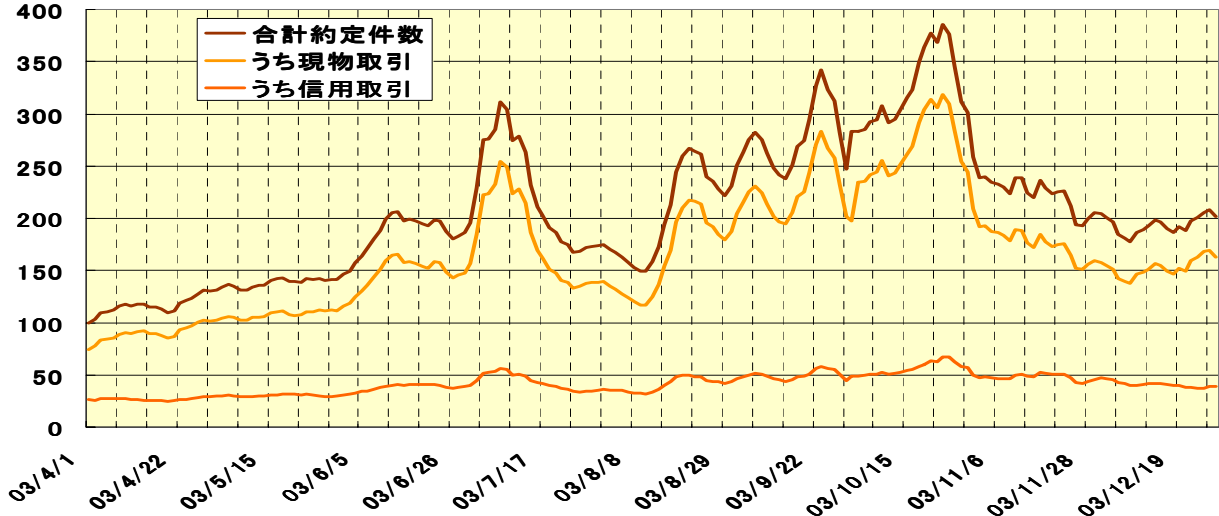
■ 2003年12月末現在のMRF残高: 1,024億円

■ 2003年9月末→2003年12月末 日経平均株価指数: + 4.5 %、マネックス顧客預かり資産: + 4.9%

信用取引口座数および信用取引残高



約定件数の推移(2003年4月1日=100として指数化、5営業日の移動平均)



**●当社の課題**

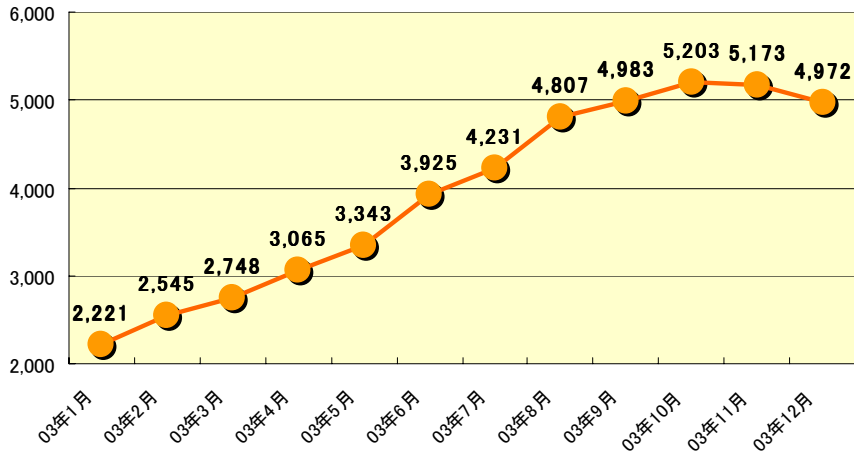
信用口座数は着実に増加しているものの、同業他社と比べると少ない信用口座数を増やすことが今後の課題

**●当社の特徴**

信用取引約定件数のブレは現物取引約定件数のブレより相対的に小さく安定して収益に寄与

## 個人投資家の資産運用の幅を広げるオリジナルサービスとして着実に浸透

契約口座数の推移



● 契約口座数は順調に5千口座を超えたが、特定口座、信用口座の新規申込みにより若干減少

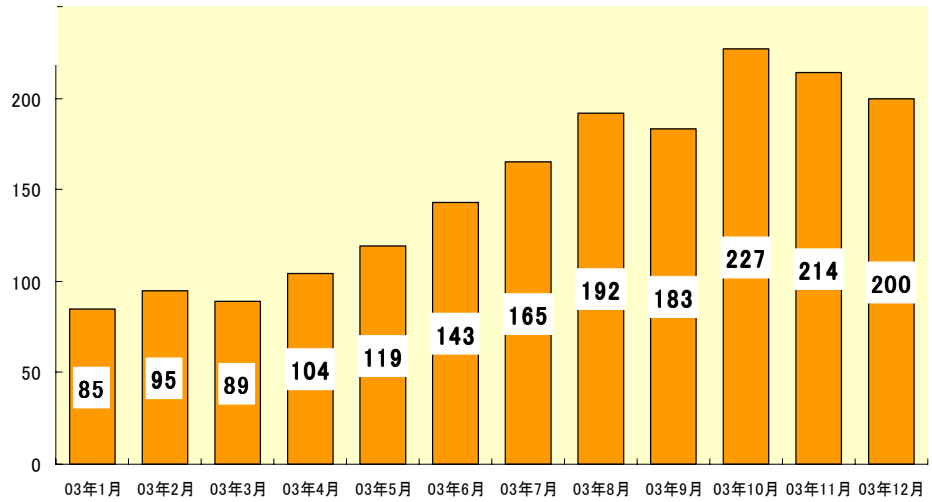
顧客へのサービス認知度を強化

- キャンペーンの活用
- わかりやすいサービス説明
- 魅力的なサービスとしてバージョンアップ

- 貸株サービス愛称決定 『はたらく株さん』(商標登録出願中)
- 平均貸株金利は年0.13%(2003年4月~12月)



貸株サービス残高推移(億円)



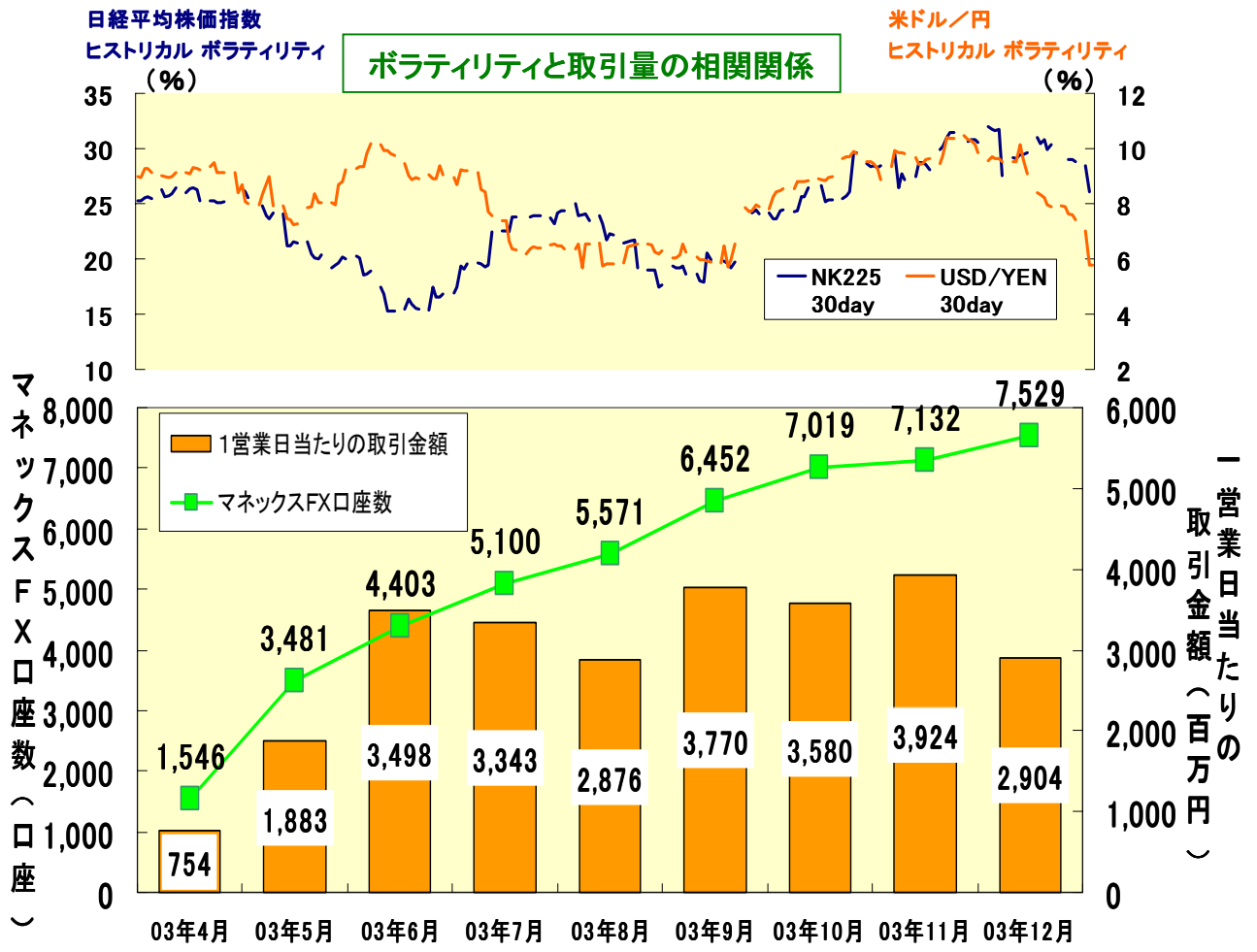
## 株式市況の影響を受けにくい顧客ニーズに適した商品に成長



**取引通貨**  
組み合わせは8種類

米ドル/円、ユーロ/円  
ユーロ/米ドル、豪ドル/円  
英ポンド/円、スイスフラン/円  
カナダドル/円  
ニュージーランドドル/円

マネックスFXの取引量は  
為替市場のボラティリティと  
の相関関係が認められる



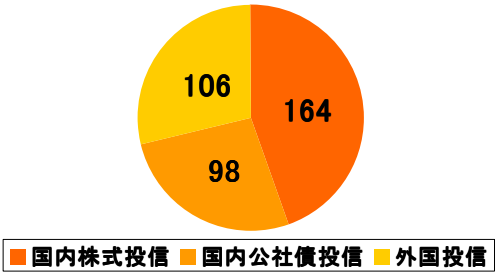
## 多様な個人投資家にマッチした商品・サービスの品揃えが実を結び確実に伸長

長期分散投資をサポートする商品サービス

### ■ 投資対象の分散を実現するラインナップ

	株式型	債券型
国内	インデックス アクティブ	MRF・MMF・公社債投信 〔個人向け国債〕
海外	グローバル、アメリカ ヨーロッパ、エマージング	外貨MMF(米ドル、ユーロ) 外債ファンド
その他	バランス型ファンド	

2003年12月末時点の投信残高  
(MRFを除く) 100%=368億円

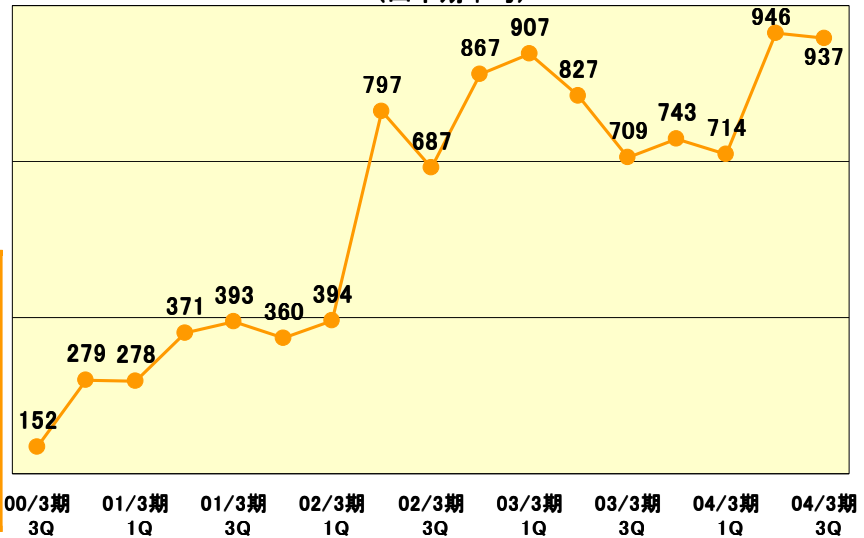


### ■ 時間の分散を実現する2つの積み立て

	件数	金額
投信定額積立	5,048	95百万円
カードde自動つみたて	5,137	106百万円

(※) 定額積立は2004年1月9日現在申込実績  
(※) カードde自動つみたては2003年12月実績

1営業日当り注文件数 (MRFを除く)  
(四半期平均)

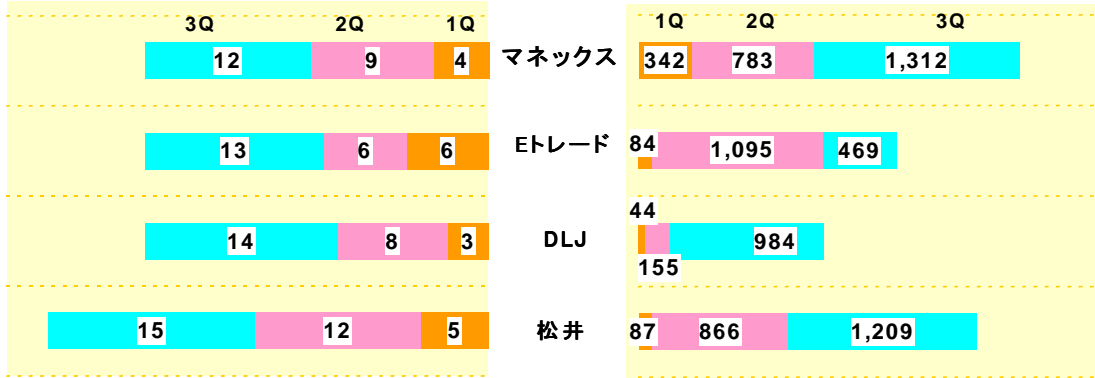


短期ニーズに対応する商品

日本株式	ブルベア	日経平均に連動するブルベアのスイッチ可能ファンド
日本債券	債券 ベアファンド	長期国債の値動きと逆方向に動く国内投信
外貨取引	[マネックスFX]	8つの通貨で売り買いどちらからも取引できる保証金取引

## オンライン証券としては他を圧倒する4社(当四半期 2社)の副幹事を獲得

引受社数(社) 04/3期1Q~3Q 引受金額(百万円)

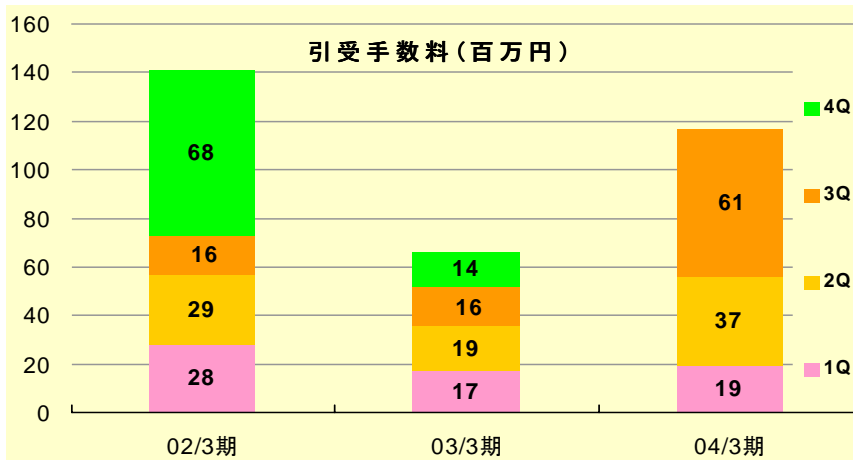


04/3 3Qの引受実績

社名	上場日	シェア
カカコム(副幹事)	10月9日	10.0%
スリープロ	11月5日	4.0%
日本ベリサイン	11月19日	10.0%
篠崎屋	11月28日	2.0%
日本ファルコム	12月2日	1.0%
ベリサーブ	12月3日	1.0%
オンコセラピー・サイエンス	12月8日	2.0%
バンダイネットワークス	12月12日	3.0%
日本エム(副幹事)	12月12日	8.0%
サイトサポート・インスティテュート	12月18日	1.0%
トーカロ	12月19日	1.0%
ランド	12月19日	4.0%

■引受契約ベース

■引受契約ベース



・04/3期3Qの引受手数料は、前年同期比3.8倍の61百万円と大幅に増加。1Q~3Q累計引受手数料も117百万円と2.3倍に拡大。

・1Qワコム(25%)、2Qアイロム(6%)、3Qカカコム(10%)、日本エム(8%)の副幹事を獲得。また、日本ベリサインのIPOでは、引受比率10%と高いステータスを得る。

・03年11月1日付けで引受部を資本市場部と企業金融部に改組し、資本市場部の下に引受審査室を新設。

・オンライン随一と自認する引受幹事能力の一層の強化拡充を図り、主幹事案件の醸成と投資銀行業務への展開を図る。

(注) 引受手数料は、既公開会社ファイナンス・委託販売に伴うものを含む。  
 その他データは、新規公開に伴うものに限る



I .財務情報および事業の概要

 II .経営モデルと今後の展開

## 【業態認識】

- オンライン証券＝「安い・速い」の時代は終わった。
- 広範囲のお客様の金融・投資に関する知識・知恵の向上に努め、お客様の運用リターンの向上を手助けしなければならない。

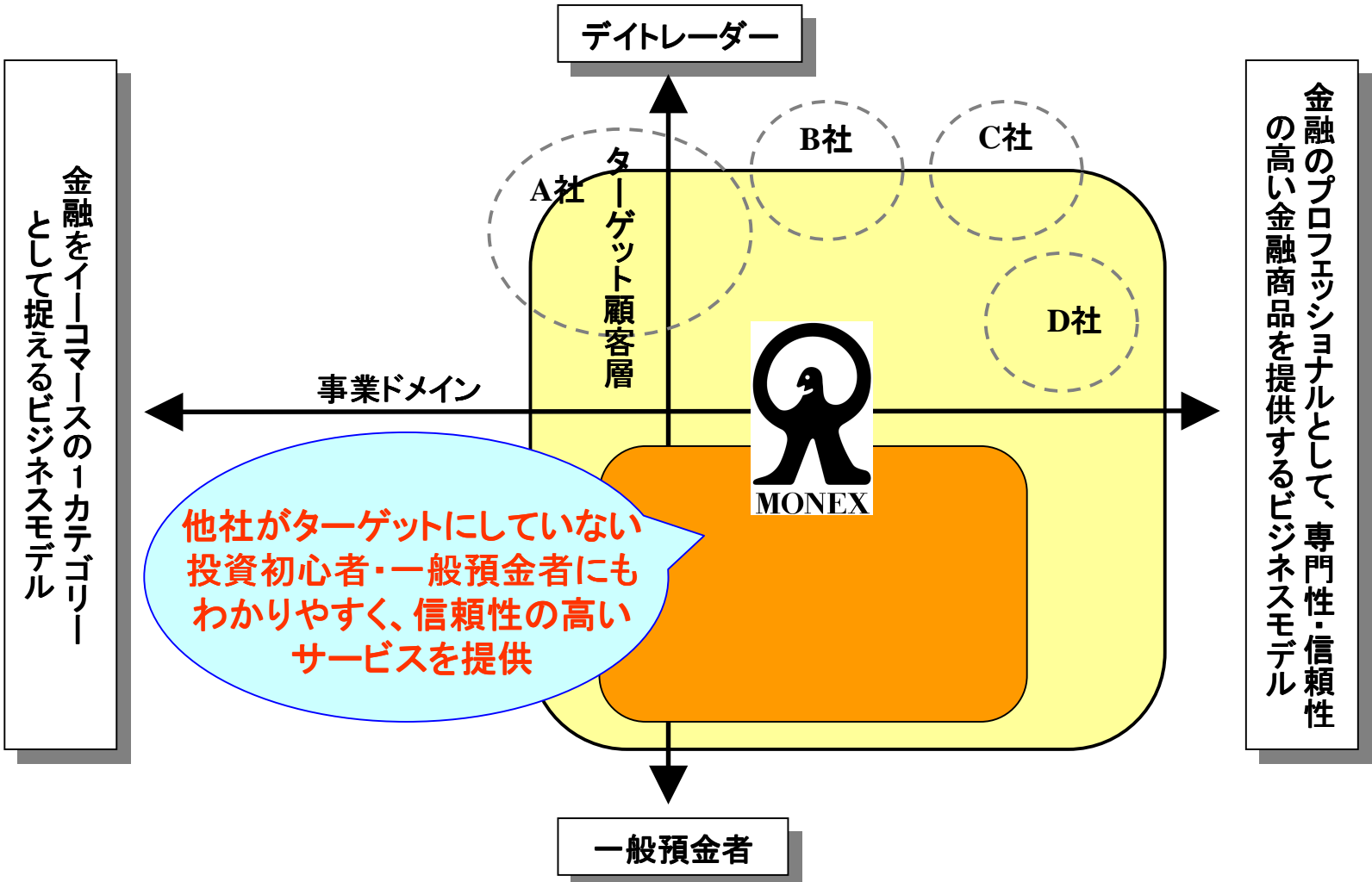
## 【市場認識】

- 株式市場は上昇傾向にあり、かつオンライン取引は益々伸びており、経営環境は良好。
- 銀行を中心とした間接金融体制から、市場機能を中核とした直接金融体制に移行していくことは今や国策であり、全般的なフォロー・ウィンドは強い。

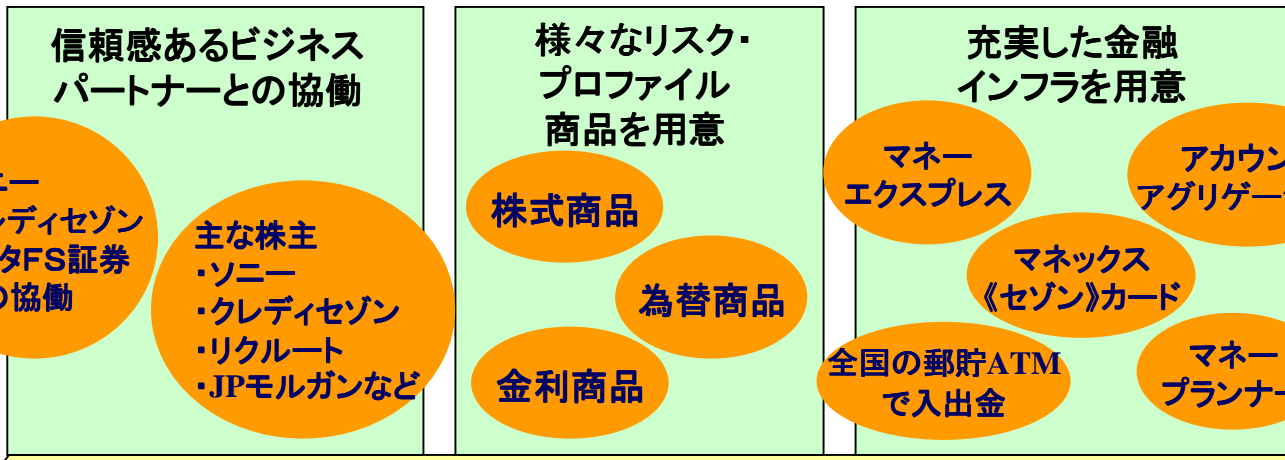
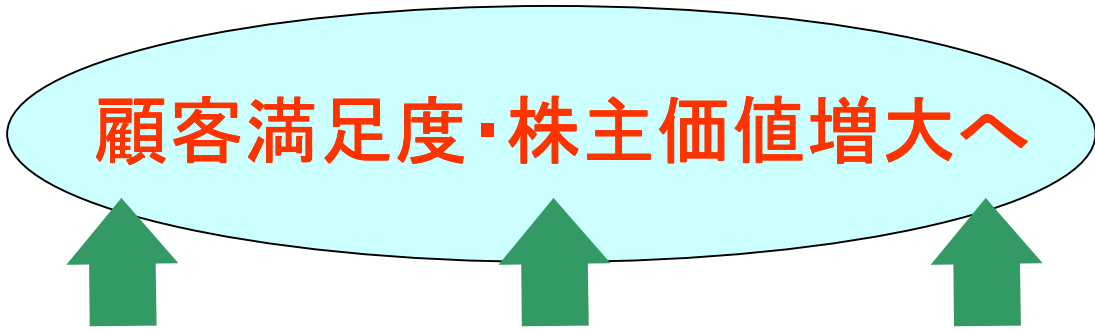
## 【経営方針】

- 信頼される金融機関たること、顧客の満足を最も重要な指針とすることを遵守し、株主価値の増大に努めていきたい。
- 当社は黒字体質化も果たし、今こそ第二創業の決意でこれらの実現に臨みたい。

## 今後の拡大成長に向けた当社の事業ドメインとターゲット顧客セグメント



充実したシステムを基盤とし、3つの要因により更なる飛躍へ



## システムの充実

- 安定稼働実績
- 24時間モニタリング
- キャパシティの確保
- 冗長構造

貯蓄から投資へ 金融システムの変革と共に次のステージへ

オンライン証券の枠を越え  
代表的なリテール金融機関を目指す

オールラウンドネット証券  
として収益の多層化

目標  
「累損解消」

目標  
「東証1部上場」

資産運用  
預貯金 → 株式へ



新システムのリリース  
＝強固な金融インフラの提供

間接金融  
構造改革  
企業価値

市場の拡大とともに一般  
預金者を取り込み新たな  
成長ステージへ

初心者の市場参加  
を促し、急速に成長

直接金融  
企業価値の増大

資本市場と社会構造の急激な変化の中で  
新たな企業価値を創造する



**MONEX**

<http://www.monex.co.jp/>